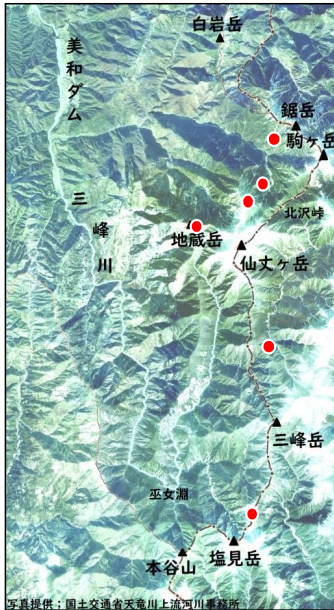


5-2-1 赤石山脈（南アルプス北部）における出現種の分布 1

以下に、南アルプスにおける代表的な種の分布図を示す。

1 タカネピランジ(ナデシコ科)

Silene keiskei var. *akaisialpina*



県絶滅危惧種Ⅱ類。高さ10~30cmで日当たりの良い岩場に生える南ア特産の日本固有種。南ア中南部ではシロバナも多い。*Silene keiskei* には、他にオオピランジ、ピランジがある。

2 ミヤマミナグサ(ナデシコ科)

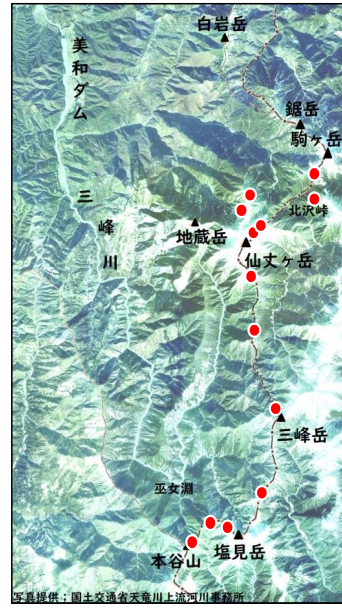
Tilingia tachiroei



亜高山~高山砂礫地に生育する種で、本州に分布する。基準標本は甲斐駒ヶ岳採集のもの。高さ10~20cm。

3 ハクサンシャクナゲ(ツツジ科)

Rhododendron branchycarpum



南アでは普通に見られる種。頂上より下のハイマツ帯・亜高山帯に生育する日本固有種。花期6~7月。

4 キバナシャクナゲ(ツツジ科)

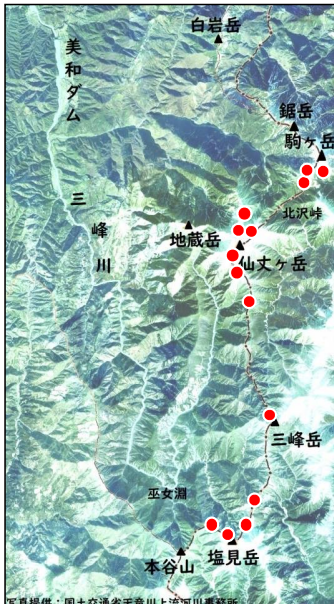
Rhododendron aureum



地上をはい、高さ0.2~1mになる常緑低木。高山帯のハイマツ林内や縁部に生える。花期6~7月で、ハクサンシャクナゲよりやや早い。中部地方以北に分布。

5 コケモモ(ツツジ科)

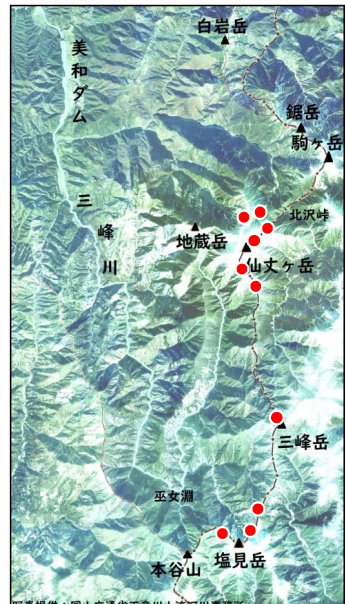
Vaccinium vitis-idaea



高山岩場に普通。駒ヶ岳・仙丈ヶ岳・塩見岳ともに生育する。大阿原湿原にも生育している。高さ10~15cmの常緑小低木。

6 アオノツガザクラ(ツツジ科)

Phyllodoce aleutica



雪田や雪溪のわきの湿地に生育する高山を代表する種である。常緑の小低木で、高さ7~15cm。花は下向きに咲くが、果実は上向き。駒ヶ岳山系では見られない。

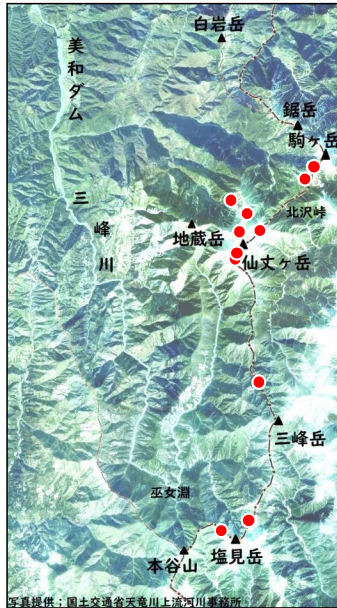
5-2-3 赤石山脈（南アルプス北部）における出現種の分布 3

13 チシマギキョウ(キキョウ科)
Campanula chamissoris



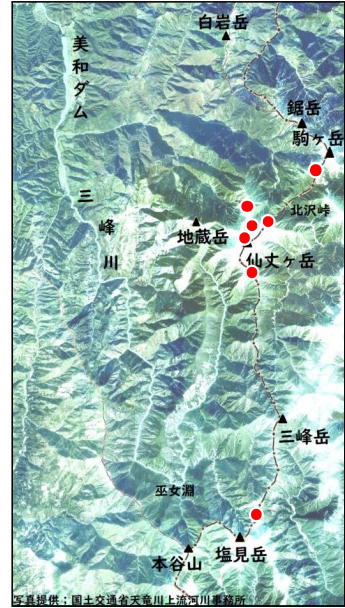
高山の岩場・岩礫地に生育する。立地の多さから、南アより中アの方が生育が多い。花冠の縁の長毛が特徴で、毛のないイワギキョウは南ア本地域では見られない。

14 ヨツバシオガマ(ゴマノハグサ科)
Pedicularis chamissoris var. *japonica*



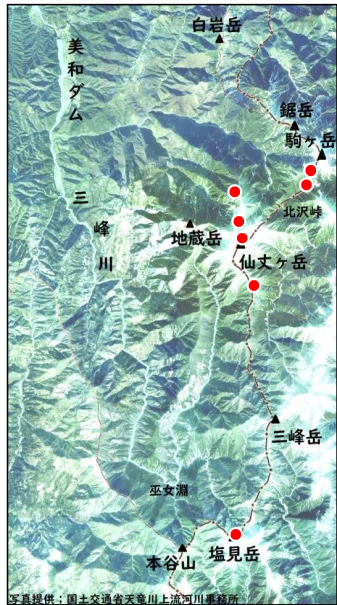
高山草原や流水縁に普通に見られる多年草だが、南アでは分布は広くはない。仙丈ヶ岳周辺に多く、南部に少ない傾向がある。

15 ミヤマシオガマ(ゴマノハグサ科)
Pedicularis apodochila



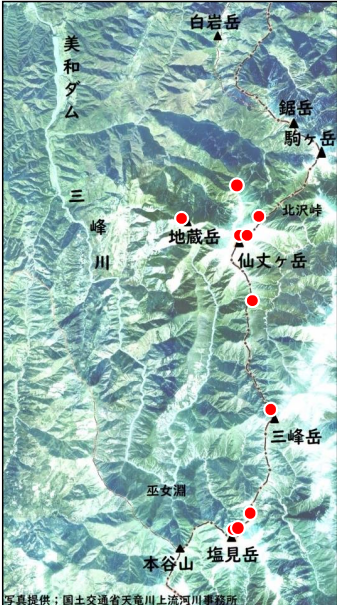
高山の風衝草原で時おりに見られる多年草。貧栄養な立地に適応しているらしく、南アよりも中アの方が生育は多い。

16 シナノキンバイ(キンポウゲ科)
Trollius riederianus var. *japonicus*



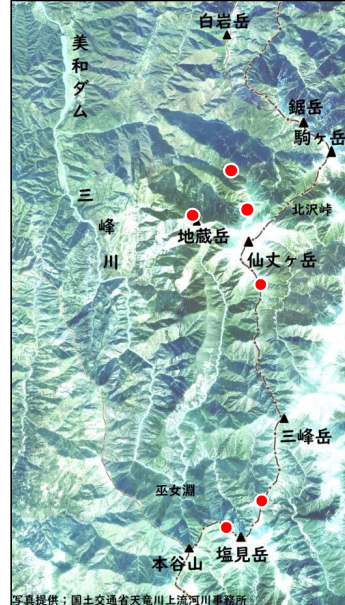
北海道～本州の高山湿地の代表的な草本。信州に多いところから名がついたとされるが、基準標本は北海道で、生育も多い。花卉はなく、大きな黄花は、萼。

17 タカネヒゴタイ(キク科)
Saussurea triptera var. *minor*



仙丈・塩見を中心に高山岩場に分布。標高が低い地蔵尾根が南アでは特異的な生育地である。ヤハズヒゴタイの変種で、草丈20cm以下、葉が沿下して翼になる。

18 ミヤマウイキョウ(セリ科)
Tilingia tachiroei



岩礫地の植物で、線形の葉が特徴。低標高地にも生育するが、南アでの分布は少ない。高さ10～30cmで、花期は7月下旬から9月。

